

令和7年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
小	121

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)  
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 湯築小 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上  
B:肯定率の平均が60%以上90%未満  
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 横田 美佳

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。 ※ 色が付いているセルのみ入力してください。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	21	79	0	0	3.2	○教師が、松山の授業モデルを基に、自立した学習者を育てるために、学び合う場の充実を図ることで、児童は多様な考えと出会い、主体的に学習することにつながった。 ◆ICTはツールであるという意識のもと、ベストミックスで授業改善していく必要がある。家庭学習でも個別最適な学習が可能なデジタルドリルを活用し、学力向上に努めたい。 ◆ITスタジアムへの積極的な参加や体育委員会主催のイベント開催、新しい遊具の活用等を通して、児童が運動に親しむことができる場を設定し、体力の向上に努めたい。 ◆地域にある豊富な歴史的・文化的学習材を生かした活動が十分ではない。まずは教師自らが地域を知ることから始め、授業等に取り入れ、児童の郷土愛を育みたい。
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	B	教職員	84	47	37	16	0	3.3	
			学校関係者	86	14	72	14	0	3.0	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	93	28	65	7	0	3.2	
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	教職員	89	21	68	11	0	3.1	
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	45	55	0	0	3.5	○いじめ問題は、毎月の生活調査等で把握し、全体で情報共有して迅速に対応した。 ◆異年齢集団活動をより充実させることで、相手を思いやる優しい心を育てたい。 ○毎月、児童の実態に即した重点目標を設定し、全校で共通理解を図り、取り組んだ。問題が起きたときには、生徒指導主事からテレビ放送等で知らせ、改善に努めることができた。 ◆係や当番活動を通して、働くことの大切さややりがいを感じさせ、自分の好きなことや長所を自覚させる。それが将来につながることを意識させ、発達段階に応じた指導に努める。 ○登下校中の見守りは地域や保護者の協力を得ている。課題があると、すぐに全校で共有し、全職員で徹底した指導ができた。毎月の安全点検により、危険箇所の改善に努めた。 ◆早寝・早起きができず、遅刻する児童が多いため、個別に保護者にも働き掛けて改善していく。また、保健だより等で保護者に睡眠の重要性を伝える。 ○換気や手指の衛生など、養護教諭を中心に感染の予防について積極的に指導するとともに、保護者に感染対策への協力を働き掛けた。
			学校関係者	100	43	57	0	0	3.4	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	97	34	63	3	0	3.3	
			学校関係者	100	29	71	0	0	3.3	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	87	13	74	13	0	3.0	
			学校関係者	100	29	71	0	0	3.3	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	100	34	66	0	0	3.3	
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	42	58	0	0	3.4	
			学校関係者	100	43	57	0	0	3.4	
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	A	教職員	95	37	58	5	0	3.3	
			学校関係者	100	86	14	0	0	3.9	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	94	49	45	6	0	3.4	○学級担任は、児童一人一人の実態を把握し、保護者や特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事、関係諸機関と情報共有し、連携しながら適切な指導に努めた。
			学校関係者	100	67	33	0	0	3.7	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員	100	44	56	0	0	3.4	○日頃より、学年主任や各教科等の主任が、それぞれの立場で前向きな意見を出し、組織で対応するよう努めた。今後日々の課題を共有し、迅速に対応できるよう努力する。
			学校関係者	100	57	43	0	0	3.6	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	97	21	76	3	0	3.2	○初任者研修や中堅研修を受講している教員の授業研究を中心に、全教職員がよりよい授業づくりに向けて積極的に研修に臨み、授業改善に取り組むことができた。
			学校関係者	100	17	83	0	0	3.2	
保護者・地域との連携	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	95	37	58	5	0	3.3	○今年度、まつやま型CSを導入し、PTAとの連携により、湯築小サポーターの支援の下、充実した教育活動を行うことができた。安全面の確保や教師の負担軽減にもつながった。 ○学校・学年だより、ホームページ等で学校や子どもたちの様子を伝えるよう努めた。 tetoruを積極的に活用し、様々な情報発信を迅速に行うことができた。
			学校関係者	100	71	29	0	0	3.7	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	37	63	0	0	3.4	
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展示の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	100	26	74	0	0	3.3	○授業中に話し合う時間「ななゆめタイム」を設け、言語活動の充実に努めた。季節に応じて校内の掲示物の貼り替え、環境整備に努めた。
			学校関係者	100	43	57	0	0	3.4	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	100	33	67	0	0	3.3	○入学説明会で1年生と新1年生が交流したり、中学校の入学説明会で授業を参観したり、中学校生活の紹介を聞いたりして、それぞれの不安感を軽減しようとした。 ○学級編成に係る入学、卒業前の情報交換に限らず、配慮を要する児童については、必要に応じて積極的に情報共有し、互いに児童理解に努めることができた。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	100	18	82	0	0	3.2	
			学校関係者	100	50	50	0	0	3.5	